
創作物語 1

hikaru

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

創作物語1

【コード】

N0539BA

【作者名】

hikaru

【あらすじ】

記憶をなくしてしまった僕。

ひと夏の、記憶を取り戻すための冒険。

ここは・・・何処？

気が付くと僕は砂浜にいた。

前身はずぶ濡れだ。

それにしても暑い・・・

いったいここは何処なのだろう・・・

と思い、動いてみた。

立ち上がってみると、激しく頭痛がした。

『うづうづ・・・』

そのまま膝をついて砂浜に倒れこんだ。

それから数時間後、ふと目が覚めた。

『おお、目覚めたか。』

と男が優しい声で言った。

『誰？』

お礼を言う前に、そんなことが我先にと出てしまった。

『おいおい、命の恩人にそんな言いぐさはねーんじゃねーか？』

俺が砂浜を散歩してなきゃ今頃お前さんは仏さんだぜ』

『そつだ・・・あの時頭痛がして・・・』

と、つぶやいた。

男はそのつぶやきすら逃さず突っ込んできた。

『頭痛・・・？まあいいや。ところでお前さん、何者なんだ？』

『僕は・・・』

『ん？どうした？』

『なにも・・・思い出せない・・・』

『おいおい、それって記憶喪失ってやつじゃねーのか？』

と、男が驚いたような口調で言った。

『まあいいや。俺の名前はローカスだ。よろしくな』

男が自己紹介の後に手を差し伸べてきた。

『よろしくお願ひしま・・・』

グ~~~~~

お腹が鳴ってしまった。

一瞬たつて、ローカスから

『大爆笑』と言わんばかりの、笑い声が聞こえた。

『ハハハハそうかそうか、腹が減ってんだな。待ってる、今作ってきてやるからさ』

と厨房に入っていくローカス。

僕はベッドの上でお腹が鳴ったことに対しての恥ずかしさで、赤面していたがようやく脳に酸素がいきわたった

らしく、僕は試行錯誤を始めた。

（僕はいったい誰なんだ？なんであんな所に倒れていたんだろうか・・・）

と、考えているうちにローカスが厨房から出てきた。

『お待たせちゃん』

とローカスが持ってきたのは、シュペッツレと、コンソメスープだった。

『これは？』

と尋ねてみた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0539ba/>

創作物語 1

2012年1月1日02時47分発行